

第1章

呉市の沿革

灰ヶ峰から望む呉市内

呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市で、海岸線延長は約300キロメートルに及び、多島美を有する風光明媚な地勢を有しています。

呉市誕生の出発点は、明治19(1886)年に呉港が第2海軍区鎮守府の位置に設定されたことに始まります。

明治22年7月に呉鎮守府は開庁し、翌年4月に明治天皇の行幸を賜り開庁式が挙行されました。その後、明治36年には呉海軍造船廠と呉海軍造兵廠が合併して呉海軍工廠が設立されました。

呉海軍工廠の拡張にともなって、呉港は村人たちの予想をはるかに超えるスピードで発展し、明治35年10月1日、和庄町・莊山田村・宮原村及び二川町(吉浦村の一部だった両城・川原石地区を中心とした地域)が合併し、呉市が誕生しました。

明治32年には広村に建設された水力発電所により呉で初めて電灯がとまり、明治36年には呉線広島海田市-呉間が開通、明治42年には県内初の市街電車が開通するなど都市化によって市民生活も大きく変化しました。

大正期に入ると、呉市にとって長年の懸案であった呉鎮守府水道余水の呉市分与についての市からの請願を、呉海軍は、大正2(1913)年3月に承諾し、大正7年2月に呉鎮守府水道本庄水源地が竣工したことを受け、同年4月1日に呉市水道は市民給水を開始することができました。

昭和3(1928)年に呉市は、吉浦町・警固屋町・阿賀町の3町を、昭和16年には広村・仁方町を合併して市域を拡大し、工廠の工員を中心に人口は急激に増加しました。日中戦争が勃発した昭和12年、呉海軍工廠の持てる技術の総てを注ぎ込んだ世界最大の戦艦「大和」の建造が始まり、太平洋戦争の始まった直後の昭和16年12月に竣工しました。

昭和20年、呉市もアメリカ軍による空襲の標的となり7月1日から2日にかけての市街地空襲など一連の空襲で工廠も軍港も機能を失い、市街地は焼け野原となり、市民だけで約2千人が犠牲となりました。同年8月に終戦となり、敗戦のショックからわずか1か月後の9月に枕崎台風襲われ千人を超える市民が犠牲となりました。こうした危機的状態の10月、約2万人のアメリカ軍が広湾に入港、上陸、呉市に司令部を置き、中国・四国地方を範囲とする占領業務を担当しました。翌年2月からは、アメリカ軍に替わって英連邦軍が占領業務につきました。海軍の消滅とあいつぐ災禍により、最盛期に40万人を超えたといわれた人口は、昭和20年末には15万人に激減してしまいました。

その後、占領軍の引き揚げが本格化したため失業者が増加し、失業問題の解決は旧海軍施設の活用以外にあり得ないと考えた呉市は昭和25年に、旧軍港4市で協力して、「旧軍港市転換法」を成立させました。これにより、呉市の旧海軍施設は国有財産として市には無償もしくは低価格で、企業には低価格で払い下げることができるようになりました。そのひとつとして、大



呉市役所



旧呉鎮守府司令長官官舎



呉みなと祭

正時代に余水をもらい市民水道としていた旧海軍専用の本庄水源地や宮原浄水場などが晴れて呉市の水道施設になりました。

呉市は「旧軍港市転換法」を追い風に企業誘致に努め、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ産業など多くの企業を誘致しました。また、昭和29年には海上自衛隊が誕生し呉地方総監部が発足するなど徐々に復興をとげ、昭和31年には天応町・昭和村・郷原村の3町村と合併し、戦後初めて人口は、20万人に回復しました。

昭和30年頃から40年代後半までの高度経済成長期には呉市も発展を遂げ、昭和地区や広地区の人口の増加もあり、昭和50年には戦後の人口のピークを迎えていましたが、昭和48年に発生した石油危機やその後の円高現象により、呉市の経済は長年にわたり沈滞することとなりました。

そうした状況を打開するために、広島中央テクノポリスや呉マリノポリスを積極的に推進し、平成6(1994)年に呉地方拠点都市地域に指定され、その中心都市として機能充実や拠点性向上を図り、平成12年には特例市の指定を受け、地方分権時代における広島県芸南地域の担い手として重要な役割を担うこととなりました。

また、平成14年に全国で52番目に市制施行100周年という記念すべき節目を迎えるとともに、市町村合併の推進にも積極的に取り組み、平成15年から17年には、下蒲刈町、川尻町、音戸町、倉橋町、蒲刈町、安浦町、豊浜町及び豊町の近隣8町と合併し、地域の資源を活かした新「呉市」として新たなスタートを切りました。



美術館通り



朝鮮通信使再現行列

平成17年に呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)が開館し、多くの来館者で賑わっています。平成28年には中核市に移行し、市民サービスのさらなる向上が図られ、同年には呉市を含む旧軍港4市が日本遺産の認定を受けるなど特色あるまちづくりを推進しています。



呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)



音戸大橋と第二音戸大橋